

2026年4月27日

2026年度五十嵐威暢アーカイブ

企画展「モノのレトリック」開催

前期 令和8年4月27日(月)～令和7年8月30日(日)

後期 令和8年9月21日(月・祝)～令和9年1月17日(日)

場所：金沢工業大学ライブラリーセンター 五十嵐威暢アーカイブ



金沢工業大学五十嵐威暢アーカイブでは、2026年度企画展「モノのレトリック」を2期にわたり開催いたします。前期は、令和8年4月27日(月)～令和8年8月30日(日)、第2期は、令和8年9月21日(月・祝)～令和9年1月17日(日)の期間開催いたします。

2026年度 五十嵐威暢アーカイブ企画展 「モノのレトリック」

開催期間：前期 令和8年4月27日(月)～令和7年8月30日(日)

後期 令和8年9月21日(月・祝)～令和9年1月17日(日)

会期中は、五十嵐威暢の創作活動を紹介する常設展もご覧いただけます。

開催時間：10時～17時 **入場無料**

場所：五十嵐威暢アーカイブ 金沢工業大学ライブラリーセンター2F

石川県野々市市扇が丘7-1

展示協力・作品制作：船越晴稀

グラフィックデザイン：和田悠馬

<https://igarashiarchive.jp/>



*休館日は五十嵐威暢アーカイブウェブサイトからご確認ください

展示概要：

企画展 「モノのレトリック」

「レトリック」とは、言葉を巧みに用いて効果的に表現する技法のことで、直喩や隠喩、対比、倒置などがその例として挙げられます。言語哲学者の佐藤信夫は『レトリック感覚』（1978）において、レトリックを物事に対する新たな視点や思考の獲得を可能にする「発見的認識」の技術と捉えています。同じ内容でも表現の仕方によって異なるイメージや意味が喚起されるように、レトリックは私たちの認識そのものに影響を与えているのです。

こうした働きは、美術やデザインにも見出されます。たとえば、穏やかな丸みを帯びた白い大理石の彫刻は、雲のような軽やかさを想起させます。ここで操作されているのは色彩や素材、形態など、モノが持つ物理的、視覚的な要素です。それらは、特にデザインの領域で重視されてきた機能性とは異なる次元において、見る人に多様な印象を与え、新たな発見をもたらします。

本展には、美術家の船越晴稀氏に参画いただきました。船越氏は、独自の視点と感性によって展示作品を起点とする意味のネットワークを展示室内に張り巡らせています。しかし同時に、船越氏はあくまで1人の鑑賞者として振る舞うことで、見る人もまた創造の主体であることを示唆しているようです。だとすれば、この展示室は、鑑賞が創造へと広がる場とすることができるかもしれません。



五十嵐威暢アーカイブ

金沢工業大学は、STEM 教育に「デザインとアート」を柱とした感性教育を融合すること、そしてその研究の充実と実践を行うことを目指しています。五十嵐威暢アーカイブは、そのための新たな学びの場として 2023 年にオープン、彫刻家、デザイナーの五十嵐威暢氏から寄贈された 5000 点もの作品や資料が収蔵されています。多様なコレクションを活用したプログラムを通じて、学生たちが独自の視点で世界を感受し、創造する力を引き出す活動を推進しています。また研究者だけでなく一般に開かれたアーカイブとして、デザインやアートの資料を広く活用することを目指しています。

本件についてのお問い合わせ

金沢工業大学 五十嵐威暢アーカイブ 野見山桜、鯉沼晴悠

076 - 294 - 6904/igarashiarchive@kanazawa-it.ac.jp

金沢工業大学企画広報室

石川県野々市市扇が丘 7-1/076 - 246 - 4784/koho@kanazawa-it.ac.jp